

45宇宙委第22号
昭和45年3月24日

殿

宇宙開発委員会委員長
西田 信一

第5回宇宙開発委員会定例会議の開
催について

標記会議を下記により開催しますので、ご出席下さい。

記

1. 日 時 昭和45年3月26日(木)
午後2時~3時
2. 場 所 宇宙開発委員会会議室
(虎の門第/銀行ビル3階)
3. 議 題 技術部会の審議事項について

第5回宇宙開発委員会定例会議議事次第

45.3.26

於 飛門第一ビル
宇宙開発委員会
会議室

技術部会における審議事項について

配布資料

委5-1 第4回宇宙開発委員会定例会議議事要旨

委5-2 技術部会における審議事項(案)

第4回宇宙開発委員会定例会議事要旨

- 1 日時 昭和45年3月11日(水)
午前10時30分～12時
- 2 場所 科学技術庁第2会議室
- 3 議題 (1) 前回議事要旨の確認
(2) 宇宙開発に関する基本計画について
(3) その他
- 4 出席者

委員長代理	山 県 昌 夫
委員	大 野 勝 三
”	吉 識 雅 夫

関係行政機関職員

科学技術庁研究調整局長	石 川 晃 夫
文部省大学学術局審議官(代理:大学学術局学術課)	鈴 木 喬
通商産業省工業技術院総務部長(代理:総務部研究業務課)	柘 植 方 雄
運輸省大臣官房参事官(代理:大臣官房副政策計画官)	清 水 正 義
海上保安庁総務部長(代理:水路部編曆課)	山 崎 昭
建設大臣官房技術参事官(代理:大臣官房技術調査室)	中 村 六 郎

事務局

科学技術庁研究調整局調整課長	伊 原 義 徳 他
----------------	-----------

5 配布資料

- 委4-1 第3回宇宙開発委員会定例会議事要旨
- 委4-2 宇宙開発に関する基本計画(案)
- 委4-3 宇宙開発に関する懇談会議事要旨

6 議事要旨

(1) 前回議事要旨の確認

「第3回宇宙開発委員会定例会議事要旨」が確認された。

(2) 宇宙開発に関する基本計画について

事務局から「宇宙開発に関する基本計画」(案)につき説明があつたのち、次のような審議があつた。

(イ) 山県委員より、基本計画を制定するための手続きにつき質問があつたのに対し、事務局から「とくに決められた手続きはないが、原子力関係の基本計画と同じ方式でお願いしたい。」との説明があつた。

(ロ) 吉識委員の指摘に従つて、事務局案第1項中、第2行目を次のとおり修正することとなつた。

「などの実利用を」を「などを」に改める。

(ハ) 大野委員より、第3項および第5項につき

「第3項(体制の整備関係)に関しては、委員会の総

合調整の下における一元化の体制を今後強化する必要がある、本項においてこれを強調すべきである。第5項(国際協力関係)に関しては、政府は宇宙開発を進めるにあたり、海外の進んだ技術の活用を大に行なうべきであり、躊躇すべきでない。一方、自主技術を促進させることは当然必要である。」との意見が述べられた。

上の意見をもとに文案を検討した結果、次のとおり修正することとなつた。

第3項中第2行目

「一元化体制を一層強化することとし、関係各機関はその-----」を「一元化体制を一層強化する。関係各機関は、宇宙開発委員会の方針に沿つて-----」に改める。

第5項

「全文」を「開発を効率的に進めるため、自主技術の育成に留意しつつ海外技術の有効な活用を図る。また、開発の推進を通じて、国際的な友好を促進する見地から国際協力を積極的に行なう。」に改める。

(二) 以上の修正を行なつたうえ、委員会はこの「宇宙開発に関する基本計画」を決定した。

(3) その他

山県委員からNASA長官訪日の際説明のあつた「ポストアポロ計画」は日本の宇宙開発に与える影響は大きいものと考えられるので今後十分検討を行なう必要があるとの発言があつた。

技術部会における審議事項

昭和45年3月26日
宇宙開発委員会

1. 審議事項

技術部会は、宇宙開発事業団において行なわれた第1回ロケット打上げ実験の結果および東京大学宇宙航空研究所において行なわれた昭和44年度第2次観測ロケット実験の結果（科学観測の結果を除く。）を評価するために必要な技術的事項について調査審議するものとする。

2. 審議期間

上記事項の審議は、昭和45年5月までに終えることを目標とする。

終了後の

懇話会

宇宙開発計画（昭和45年度決定）
の策定に関する基本方針（案）

昭和45年 月 日
宇宙開発委員会

宇宙開発計画については、毎年その見直しを行ない、情勢の変化等に応じ、必要な修正を加え、その時点における最も適切な計画を定めて行くことをすでに定めているので、45年度に決定すべき宇宙開発計画（以下「新計画」という。）を、次の方針に従って策定することとする。

1. 新計画の内容は、「宇宙開発計画（昭和44年度決定）」（以下「前計画」という。）策定以後の情勢の推移を考慮して、これを見直し、所要の修正を加えたものとして、~~とくに~~ ^{する。} ~~できるだけ~~ ^{できるだけ} 長期間を想定し、~~わが国における宇宙の開発および~~ ~~利用がわが国および世界の経済、社会および文化の進歩に果~~ ~~てる役割ならびにこのために設定すべき長期的構想を明らか~~ ~~かにするよう努めるものとする。~~
2. 見直しの方法は、前計画について下記の検討を行なうことにより行なうものとする。

- (1) ~~わが国における宇宙の開発および利用の長期的構想を明らかにするための検討~~
- (2) ¹ 関係各機関で行なわれている研究開発の進捗状況その他情勢の変化に伴う前計画の変更の必要性の検討
- (3) ² 内外におけるわが国宇宙開発に対する要請の変化に伴う前計画の変更の必要性の検討
3. 上記の検討およびこれをふまえての新計画策定のための調査審議は、計画部会および技術部会においてそれぞれの所掌に応じて行なうものとする。
4. 新計画は、7月下旬に策定することを目途としてその審議を進めるものとする。

大野 45年度 1年及 10年展望 5年計画
あり 先と 2月 流初時 設け加増し

山本 5月~7月 長期計画の予算
A年 遅らせたいと云ふが POST APOLLO の影響大
さい。

大野 宇宙旅行 近く 実現 可能 思う。 山本 地球打ち
上げ 計画を いろいろ 必要 あり 思う。 簡単 打ち

山本 その不安を 解消

山本 内題は 46 予算

局長 POST APOLLO

大野 組織 資本参加 絶対必要

10% 20% の 2%
1000 万円

局長 必要の予備を

寺田 POST APOLLOの準備
↓ 他は少々の準備

山崎 Bilateral tower

局長 半協力の一環として

日本に情報を提供

— 研究域 — 協定の変更の必要性